

令和6年度

運営に関する計画

最終評価



令和7年3月

大阪市立三津屋小学校

大阪市立三津屋小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題**【安全・安心な教育の推進】**

定例の生活指導部会やアンケート等で、児童の実態把握に努め、課題の共有や改善を図り、また、組織的な対応も心がけ、児童の安心・安全な生活につなげた。その結果、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について『最も』と答えた児童の割合は、学力経年調査で79.4%、学校アンケートで86.6%であり目標を上回ることができた。また、なかよし班(縦割り班)活動・集団登校などを実施し、異年齢児童が常に交流し、互いを思いやる心を育てることに努めた。その結果、児童アンケートにおいて、「縦割り活動で高学年にやさしくしてもらった(低学年にやさしく接した)」の肯定的評価は97.4%、「友達の良いところを見つけている」の肯定的評価は86.1%、といずれも目標を上回った。

不登校の課題は年々多様化・複雑化し、年度末の校内調査において不登校児童の在籍比率は昨年度より増加した。今年度は、毎月実施の生活指導連絡会でより一層情報共有するとともに、継続して学校組織全体で総力を挙げて課題解決を目指し取り組んでいく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標では、小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」については肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合が82%と前年を上回る結果となった。

小学校学力経年調査における「国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。」については、国語科については、一学年のみ向上させることができた。算数科も同様に一学年のみ向上し後の学年は目標を達成することはできなかった。

小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好き」の肯定的評価は87.1%であり、目標を上回った。

小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」の肯定的評価は85.0%であり、目標を上回った。

小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対しての肯定的評価は86.9%であり、目標を上回った。

学校の年度目標では、校内調査における「学習するときに姿勢に気を付けている」と肯定的に回答する児童の割合は81.1%であり目標を達成することができた。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標では、「「学習者用端末を活用することができる」」に肯定的に回答する割合が92.6%で目標を上回った。

学校開庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業以外の休業日については1日以上設定することができた。

学校の年度目標では、「一人一台学習者用端末を使って、意見を交流することができる」の肯定的評価は78.5%であり目標を達成することができた。

3つの最重要目標のまとめとして、本年度は、個に応じた学習や基礎・基本の定着を目指した学習や授業実践に取り組んできた。

今後も個に応じた指導をより充実させ、基礎・基本の定着を図ることで学力下位層を向上させていく。そのために、朝学習の充実や家庭学習習慣の定着を図っていく。また、校内研修の充実と校外研修へのより積極的な参加を通して、各教員の指導力向上を目指す。

また、本をよく読んでいると肯定的評価をした児童が最終評価が中間評価時より20%近く減少した、来年度は読書に触れ合う機会を増やし、委員会活動などで積極的に図書室を使用する取り組みを進めていく。

児童の生活面については、早寝が定着していない児童・保護者への個別の声掛けを続け家庭と連携し健康的な生活習慣の定着率を向上させたい。

2 年度目標

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- ◎小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81%以上にする。
- 学校アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- 学校アンケートにおける「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- 学校アンケートで「縦割り活動で高学年にやさしくしてもらった（低学年にやさしく接した）」と答える児童の割合を90%以上にする。
- 学校アンケートで「友達の良いところを見つけている」という旨の回答の割合を87%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45%以上にする。
- 小学校学力経年調査における算数の無回答率を3ポイント以上減少させる。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を72%以上にする。
- 年度末の校内調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間におきていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

- 授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の５０％以上にする。
- 第２期「学校園における働き方推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準１を満たす教員の割合を６５％以上にする。

(1) 基準１ 次のア及びイの基準を満たすこと

- ア １か月の時間外勤務時間が４５時間を超えないようにすること
- イ １年間の時間外勤務時間が３６０時間を超えないようにすること

- 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７３％以上にする。

３ 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

定例の生活指導部会やアンケート等で、児童の実態把握に努め、課題の共有や改善改善を図り、また、組織的な対応も心がけ、児童の安心・安全な生活につなげた。また、あいさつ運動・集会活動・集団登校などたてわり班活動を実施することで異年齢児童が常に交流し、互いを思いやる心を育てることに努めた。結果、「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、８７．８％と大阪市の目標を達成した。

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は、８７．５％で前年度の７９．４％よりいじめに対し「あっていけない」と思う児童の割合を向上させることができた。

「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する児童の割合を９０％以上にすることができた。しかし、最も肯定的な回答が５５．３％であった。この割合を増やしていく取り組みが必要である。

「縦割り活動で高学年にやさしくしてもらった（低学年にやさしく接した）」と答える児童の割合は９５％となり、異学年交流を継続的に続けてきた結果が出ている。「友達の良いところを見つけている」という旨の回答の割合を８７．４％であり、他者に対する良いところを見つける意識が定着しつつあるので、次の段階として「自分のいいところ」に着目する取り組みを今後増やしていくことも視野に入れていく必要がある。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

基礎基本を重点に置いた授業づくりをどの学年も行い、自力解決や話し合い、練習問題の取り組みなど様々な方法で学力の向上に努めた。結果、学力経年調査では、大阪市平均もしくは上回った教科がほとんどであった。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合は42.1%にとどまった。次年度は、授業の中で考えを深めたり、広げたりする活動をどのように設定し活動していくかを検討していく必要がある。

「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は64.8%にとどまった。工事で、運動場が使えない状況で、休み時間や体育などの活動内容を工夫して取り組んできたが来年度は、楽しく体を動かし体力の向上ができるカリキュラム・取り組みを行わないといけない。

「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間におきていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を69.5%と目標には届かなかった。引き続き睡眠の大切さを伝えていくとともに、家庭と協力し目標を達成できるようにする。

【学びを支える教育環境の充実】

タブレット端末の活用については、授業中や児童の相談機能やこころ天氣の活だけではなく、朝学習や授業終わりやスキマの時間、宿題などの家庭学習でデジタル教材（デジタルドリルやスタサプ）を活用した。端末の稼働率もほぼ毎月80%以上稼働している。来年度も引き続き本年度の取り組みを継続していく。

教職員の働き方改革については、基準1を満たす割合を65%以上としたが、目標を達成することができなかった。来年度は、会議・業務内容の精選を行い、業務改善を図っていく。

読書についての取り組みに関しては、「読書タイム」や「読書週間」、おはなしわくわくや学校司書の取り組みなど、計画通りに進めることができた。読書量の目標達成率は目標を達成することができた。しかし、読書を肯定的にとらえる児童は目標値を届かず、引き続き蔵書の精選や外部関係諸団体の協力を得ながら児童の本に対する興味関心をもつ取組を行っていく。

(様式2)

大阪市立三津屋小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 学校園の年度目標 ○小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81%以上にする。 （大阪市R6目標） 【80.5%】 （R6年経年） 【87.8%】 ○学校アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。 （R6年最終） 【最87.5% 肯定的96.2%】 ○学校アンケートにおける「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 （R6年最終） 【最55.3% 肯定的90.5%】 ○学校アンケートで「縦割り活動で高学年にやさしくしてもらった（低学年にやさしく接した）」と答える児童の割合を90%以上にする。 （R6年最終）【最69.2% 肯定的95.1%】 ○学校アンケートで「友達の良いところを見つけている」という旨の回答の割合を87%以上にする。 （R6年最終）【最55.9% 肯定的87.4%】	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 全学級で学期に1回いじめアンケートを実施し、現状を把握し、早期対応ができるようにする。また、スクールライフノート心の天気や相談機能でいつでも個別に対応ができるようにする。	B
指標 ・学期に1回いじめアンケートを行う。 ・日頃の児童の様子を観察するとともに、スクールライフノート学校生活ウォッチャーで毎日1回以上確認する。	
取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 学級や学年だけでなく、教職員全員で学校全体の活動を通して、きまりを守る大切さを考えられるようにする。また、各学級の個別の課題に、学年、生徒指導部会、学校全体等の組織で対応するとともに、毎週の終礼、毎月のいじめ虐待対策委員会で、情報共有を図る。	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三津屋の安心ルールや服装のきまりを配付し、家庭と連携する。 ・毎日の看護当番、毎週の全校朝会、毎月の生活目標を通して、きまりを守る大切さについて考えられるようにする。 ・月1回の生徒指導部会や毎週の終礼、毎月のいじめ虐待対策委員会で、課題の情報共有を行う。必要に応じて、関係諸機関と連携を図る。 	
<p>取組内容③【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>学級だけでなく教育活動全体を通じて、認め合い、支え合う学級集団作りを実践する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査で「友達の良いところを見つけている」という旨の回答の割合を70%以上にする。 	B
<p>取組内容④【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>他者を敬う心を育成するため、児童が主体的に取り組む縦割り班活動を実践する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回以上、児童が主体的に計画・運営する縦割り班活動を実施する。 	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回いじめアンケートを行い、該当児童の聞き取り、解決をすることができた。心の天気の入力率が上がってきている。また、心の天気をみて個別に対応し、児童同士のトラブルや気持ちを聞くことができ早期発見につながった。 <p>取組2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心安全ルール、学校のきまり、学年だよりなどを通じて保護者への啓発ができた。 ・毎日の看護当番、毎週の全校朝会、毎月の生活目標、学級や学年での指導により児童がきまりを守る大切さの意識付けを行った。毎週の終礼や生活指導部会、職員会議後のいじめ虐待対策委員会、SKIPなどの全体場で課題の共有を図った。その結果、児童アンケート「学校のきまりを守っている」の肯定的回答は90.5%となった。 <p>取組3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの肯定的な意見が80%を超えていたことから、児童がよいところを見つけようとする意識が高くなり意識として定着していると考え。 ・道徳の授業、終わりの会、学級活動、学校行事など様々な場面で他者のよかったところの振り返りや良さを伝え合う機会をその都度設けたことが、目標を達成できた要因であると考え。 <p>取組4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会委員が主体的に計画・運営し、集会の内容を精査して本年度は取り組みを行い昨年度より実施回数を多くすることができた。また、三津屋フェスティバルや全校オリエンテーリングを行い、異学年交流の機会を設けた。結果たてわり班活動を通して、思いやりの気持ちをもつ機会が増えた。児童アンケートの肯定的回答は95%と高水準を維持できた。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>取組1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートや心の天気はいじめの早期発見には非常に効果的であるが、児童の中には表現できない児童もいる。今後もアンケートや心の天気に頼るのではなく、日頃の児童の様子や言 	

動について注意深く観察することでいじめの早期解決につなげていく。

- ・引き続きクラスルームの相談機能の活用も続けていく。

取組 2

- ・家庭の考えや児童の実態により学級差、学年差があり、きまりの徹底が難しい部分があった。来年度は児童の発達段階に合わせて学年内、学校内の指導を引き続き行う。また、教職員全体でのルール共有を一層図る。その上で学級差、教員間で指導の差が出ないようにする。
- ・課題の共有は続けてきたが、学校全体で課題解決策を共有する場が少なかったため共有できる場を定期的に設ける。
- ・全校朝会で生活目標や日々の行動の様子について指導を行っているが、オンラインのため効果が薄い時もあった。次年度は、工事も終了し校庭も広がるのでオンラインではなく対面で指導していく。
- ・休み時間の過ごし方、新しい運動場の使い方、パソコンの使い方、持ち物などについて引き続き個別対応、指導を継続する。

取組 3

- ・取り組みのバリエーションやアプローチ方法を増やすために校内や区の人権教育実践交流会研修などに参加し、引き続き、知識増やしや技術を磨くよう取り組んでいく。
- ・他者に対する良いところを見つける意識が定着しつつあるので、次の段階として「自分のいいところ」に着目する取り組みを今後増やしていくことも視野に入れていく必要がある。

取組 4

- ・本年度の三津屋フェスティバルは工事や児童数の関係で事前活動が少なかったため、活動量を増やすように年度当初より緻密に計画を立てていく必要がある。
- ・児童数は今後増加していくため、1つの班の人数が増える。本年度同様の班構成や取り組みのままであるとメンバーとの深まりが薄れていくため、1対複数名が交流できる取り組みを計画実施していく必要がある。

(様式 2)

大阪市立三津屋小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 学校園の年度目標 ○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 45%以上にする。 (大阪市 R 6 目標) 【34.8%】 (R 6 年経年) 【最 42.1% 肯定的 81.1%】 ○小学校学力経年調査における算数の無回答率を 3 ポイント以上減少させる。 ○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 72%以上にする。 (大阪市 R 6 目標) 【62.3%】 (R 6 年経年) 【最 64.8% 肯定的 84.2%】 ○年度末の校内調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間におきていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。 【4月：73%】【中間：75.6%】【最終：69.5%】	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 算数科の校内研究を中心に、児童が話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができていることを感じられるような授業づくりを進めていく。 ----- 指標 ・問題場面や発問の工夫に重点を置いた研究授業を、全体の校内研究では年間 6 回、個人の授業研究では全員年間 1 回ずつ行う。	A
取組内容②【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 授業づくりの基礎・基本を重点に置いた授業力向上の取り組みを進めることで、授業力の底上げを図り、学力向上につなげる。 ----- 指標 ・授業づくりの基礎・基本を重点に置いた授業研究を、全員が年間 1 回以上行い、相互に指導・助言し合う。	B
取組内容③【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 「三津屋タイム」（朝の学習の時間）、「家庭学習の手引き」（保護者向け資料）、「放課後ステップアップ学習（放課後学習）」を活用し、基礎的・基本的内容の定着と学力の底	B

<p>上げを図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての学級で、毎週 2 回、「三津屋タイム」に算数を中心とした基礎的・基本的内容の繰り返し学習を行う。 すべての学級で、最初の懇談会の際に「家庭学習の手引き」を活用して自主学習習慣の定着について啓発をする。また、全学級で学期に 1 回以上、児童に対してその内容に基づく指導を行う。 週 1 回、担任が課題を精選した上で、対象児童を「放課後ステップアップ学習」に参加できるようにする。 	
<p>取組内容④【基本的な方向番号 5、健やかな体の育成】</p> <p>体力向上のための運動機会の設定や、場の設定をする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年 1 回以上「ぐんぐんスポーツ」として、運動委員会を中心に、全校（各学級ごと）で運動する機会をもつ。 すべての学級で、年間 5 回以上「公園遊び」を実施する。（雨天の場合はこの限りではない。） 	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向番号 5、健やかな体の育成】</p> <p>睡眠の重要性について、学校の指導、家庭への啓発を通して意識を高めるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康委員会を中心に、月に 1 回「キラキラチェック」を行う。 年に 1 回、学校保健委員会による睡眠についての啓発を行う。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組 1</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画的に実施することができた。様々な形の交流を実践することで、話し合いを通した学習ができてきている。 充実した研究討議会を行い、淀川区支部教員研究発表会での報告もできた。 <p>取組 2</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員全員が公開授業を 1 回以上行い学年や管理職に参観してもらい、改善点や成果について助言をもらうことで授業力の向上を図ることができた。 <p>取組 3</p> <ul style="list-style-type: none"> 三津屋タイムについては、各学年で ICT 機器やプリントなど、さまざまな媒体を活用し、基礎的、基本的な内容の定着を目指して取り組むことができた。中でも NAVIMA やスタディサブリなどのデジタルドリルを有効に活用できた。また、放課後の時間を活用するなど、その後の個別の指導にも繋げることができた。 家庭学習については、家庭学習の手引きを各家庭に説明・配布することで、自主学習の様々な方法を紹介することができた。また、学校での学習したことをもとに、デジタルドリル・スタディサブリを活用して自主学習を行うなど、家庭学習の充実を図ることができた。 放課後ステップアップについては、教員間で連携を図り、週に一度実施することができた。また、複数教員で指導にあたり、より多くの児童の学習支援を行うことができた。 <p>取組 4</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状に限界はあるが、運動委員会や体育部の先生を中心に運動する機会を増やす取り組みができた。また、体力向上のきっかけになる運動を紹介することができた。公園遊び 	

- に関しては、天候や行程に課題があるが、遊びや運動の機会を増やす手立てになった。
- ・ 駅伝など、広い公園でしかできない活動に取り組むこともできた。

取組 5

- ・ 健康委員会が毎月「キラキラチェック」を行い、その際に保健目標にちなんだクイズなどで啓発を行った。また、学校保健委員会では、健康委員会の児童が主体的に発表内容を考え集会で発表することができた。そこで考えた歌を給食時に放送しさらに広めることができた。さらに、「睡眠光育ラボ」を実施したことで高学年児童の睡眠課題学習の体験をし、睡眠に対する意識が高まった。

次年度への改善点

取組 1

- ・ 様々な領域での実践ができ、研鑽が高まった。次年度は領域を限定し、系統立てた実践を試みより専門性を深める。

取組 2

- ・ 一人一授業が教員に全体共有される機会が少なかった。多くの教員が参観し相互に指導助言できるように各教員が参観するための時間の確保や時間割の構成を考える必要がある。

取組 3

- ・ 三津屋タイムは火曜日と金曜日に実施しているが、朝の時間は授業や行事との兼ね合いにより、時間の確保が難しい場合があった。実施計画の見直しを行い、三津屋タイムの実施する時間を固定していたが、朝以外の時間を柔軟に活用し基礎基本の定着させるための取り組みとして時間の確保を行っていく。

取組 4

- ・ 運動場が完成するので、本年度までの取り組みを一から見直し、運動場の広さや備品を加味して検討する。

取組 5

- ・ 「キラキラすいみん」について睡眠の重要性を認識することや、決まった時間に睡眠に入る生活習慣の確立のためには保護者との連携が不可欠である。引き続き家庭とより強固な協力体制の構築できるように手紙等での啓蒙や保護者への声掛け等を行い連携を深めていく。

(様式 2)

大阪市立三津屋小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。</p> <p>(大阪市 R 6 目標) 【35%】</p> <p>(R 6 年度実績) 【年間達成率 82.4%】</p> <p>○第 2 期「学校園における働き方推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教員の割合を 65%以上にする。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>(3) 基準 1 次のア及びイの基準を満たすこと</p> <p>ア 1 か月の時間外勤務時間が 45 時間を超えないようにすること</p> <p>イ 1 年間の時間外勤務時間が 360 時間を超えないようにすること</p> </div> <p>(大阪市 R 6 目標) 【53%】</p> <p>(R 6 年度実績) 【63.4%】</p> <p>○小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 73%以上にする。</p> <p>(R 6 年度経年) 【3 年 70.7% 4 年 59.6% 5 年 70.6% 6 年 62.7%】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6、教育 D X の推進】</p> <p>朝学習の時間やスキマ時間、家庭学習において、デジタル教材や一人一台学習者用端末を活用した学習を実施する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・デジタル教材、または一人一台学習者用端末を活用した朝学習、スキマ時間学習、家庭学習を週 1 回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向 6、教育 D X の推進】</p> <p>一人一台学習者用端末を活用した授業を実施することで、I C T を用いた児童の円滑な交流ができるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・一人一台学習者用端末を活用した授業を学期に 1 回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>教職員の働き方改革に関して勤務時間の最適化を図る。</p> <hr/> <p>指標</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・会議等を設定しない「ゆとりの日」を設定する。 ・水曜日に会議を設定し、16時半までに終了する。 ・学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以上、冬季休業期間中は2日以上設定する。 	B
<p>取組内容④【基本的な方向8、生涯学習の支援】</p> <p>読書週間の「読書にチャレンジ」と読書記録カードを一体化し、自分の読書歴や読書量を振り返ることができるようにする。それにより、普段の読書に対する意識・意欲を高め、習慣化を図る。また、読書量・読書傾向などを把握しやすくし、日々の読書指導に生かす。</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年で、年間を通して、統一の読書記録カードを活用して読書指導を行い、読書目標達成率を昨年度（40％）以上にする。 	
<p>取組内容⑤【基本的な方向8、生涯学習の支援】</p> <p>読書週間の定着を図るため、「読書タイム」を実施するとともに、学期に1回、全校での「読書週間」を設定する。また、学校司書や地域ボランティアによる読み聞かせの機会を設けるとともに、その活動と連携し、読書への関心を高める。</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての学級で、週1回、「読書タイム」を実施するとともに、学期に1回全校での「読書週間」、年1回「絵本展」を設定する。 ・すべての学級で、隔月に1回以上、地域ボランティアの活動と関連させた読書活動を行う。 ・すべての学級で、年1回以上、学校司書による読書指導や読み聞かせを行う。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝学習や授業終わりやスキマの時間、宿題などの家庭学習などでデジタル教材（デジタルドリルやスタサプ）や一人一台端末を活用した取り組みを行い、効果的に使用することができた。 <p>取組2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の調べ学習や見本の視聴、調べた内容をスライドにまとめて発表等を行うといった授業を実施し、交流を進めることができた。また、月別使用状況の割合も高い水準を満たしている。一方で低学年では端末活用を場を多く設けてはいるが、考えや意見を交流するという部分では難しいところがあった。 <p>取組3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水曜日を5時間授業にし、そこに会議などを優先的に入れてきた。会議のない日は放課後学習の時間に充て、児童理解の時間を作ることができた。しかし、会議の終了時刻は16時半を過ぎてしまうこともある。会議の内容によっては会議の進行具合も変化するため、一筋縄に16時半までに会議を終了するという事は正直難しい。 ・「ゆとりの日」を設定はされていても仕事量や早期対応が必要な問題などの関係で、定時退勤するのは難しく、定時に退勤できる教職員は少なかった。また、「ゆとりの日」の定義づけが人によって異なっていたため統一された行動がとることができなかった。 <p>取組4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は自分で読書の目標を設定したので、自分に合った目標達成に向けて取り組むことができた。また、読書カードや学校司書の取り組みなどを通じて、読書に親しむ機会を増やすことができた。その結果、学年によって大きな差はあるものの、学校全体とし 	

ては読書目標の達成率が大幅に増加した。(昨年度41.2%から今年度68.5%)
一方、学年が上がると読書量が減ることと個人差が大きいことが課題として挙げられる。
保護者アンケートでは「進んで本を読んでいる」の項目に肯定的な回答は50%を切っていた。

取組5

- ・「読書タイム」や「読書週間」、おはなしわくわくや学校司書の取り組みなど、計画通りに進めることができた。おはなしわくわくの読み聞かせや絵本展などで、児童の関心が高まり、読書を楽しんだり、様々なジャンルの本を読んだりする姿が見られた。
- ・学校司書による読書活動では、どの児童においても真剣に話を聞き、児童のいきいきする姿が見られた。
- ・これらから、読書活動の定着のため、様々な工夫や読書に親しむ機会の充実を図ることができた。

次年度への改善点

取組1

- ・端末を活用した学習も大切だが、ノートやプリントを活用したアナログな部分も、児童の発達段階においても児童の学習理解の把握のためにも紙媒体での学習は必要である。端末の活用、紙媒体中心の学習を単元の内容やバランスを鑑み、次年度の指導計画を作成していく必要がある。

取組2

- ・より効果的な活用方法として、学習展開や交流の場などの実践に向けての研修や研究等に触れ教員の技術水準の向上・研鑽を引き続き行っていく。また、「タブレットを使って、意見を交流」を年度目標としているがタブレットを使用した意見の交流にこだわらず、発達段階に合わせた活用方法の設定をしていく必要がある。

取組3

- ・中間評価の時と同様、円滑に会議を進めるために、係レベルでの事前打ち合わせや校務分掌部会での協議や練り上げの徹底が不可欠である。部会での決定事項を確実に学年で共有していく体制を構築していく。
- ・次年度は終礼を2週間に1回程度の実施にし、全体で集まる形は今年度よりも減らして教員の本来業務を増やしていく。
- ・会議の進め方や形態については、学年により考えに差異がみられるため、調整が必要。また、実態に合わせた指標や取り組み内容を検討していく。

取組4

- ・今年度成果があった取り組みを継続するとともに、引き続き日々の読書指導のさらなる研究を行う。

取組5

- ・今後も取り組みを継続するとともに、読書が習慣にまで至っていない児童への効果的な取り組みを研究するとともに児童に引き続き読書の魅力や優位性を啓発していく。

令和 6 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立三津屋小学校協議会

1 総括についての評価

- ・本年度の学校の自己評価結果は妥当である。
- ・アンケートでは、いじめがいけないことだと認識していない児童がいる。これらの児童に対して話を聞き、いじめはなぜいけないのかを指導し倫理面での指導も必要である。また、自分の口では訴えることやアンケート等で出てこない「ひそんだいじめ」がある。こころの天気やタブレットの相談機能も活用しつつ、学校は家庭との連携、児童に目配りを行いいじめについてこれまで以上に取組んでもらいたい。また、社会ではスマートホンでのトラブルやいじめが後を絶えない学校でも SNS やインターネットを扱ううえでのメディアリテラシーを育てて欲しい。
- ・他者のよいところ認める姿勢は、定着してきている。今後は、自分の良いところや自己肯定感・自己有用感を育てていく取り組みをしてほしい。
- ・学習について、単元単元で学習が途切れてしまわないように授業以外にも基礎基本が定着するように取り組んでほしい。学年が上がるにつれ授業についていけなくなる児童も多くなる。日々の取り組みの中で基礎基本の計算力や読解力を定着せせる取り組みを行い基礎基本の定着に努めてほしい。
- ・児童の端末の使用は定着してきていることがわかった。しかし、情報モラルや SNS の危険性なども子どもたちに教えていくことが必要である。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：

【安全・安心な教育の推進】

- ◎小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85% 以上にする。
- ◎小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 81% 以上にする。
- 学校アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 80% 以上にする。
- 学校アンケートにおける「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90% 以上にする。
- 学校アンケートで「縦割り活動で高学年にやさしくしてもらった（低学年にやさしく接した）」と答える児童の割合を 90% 以上にする。
- 学校アンケートで「友達の良いところを見つけている」という旨の回答の割合を 87% 以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ◎小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 35% 以上にする。
- ◎小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは

好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を64%以上にする。

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45%以上にする。

○小学校学力経年調査における算数の無回答率を3ポイント以上減少させる。

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を72%以上にする。

○年度末の校内調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間におきていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

◎授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。

◎第2期「学校園における働き方推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教員の割合を65%以上にする。

○小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を73%以上にする。

評価

【安全・安心な教育の推進】

- ・アンケートでは、いじめがいけないことだと認識していない児童がいる。これらの児童に対して話を聞き、いじめはなぜいけないのかを指導し倫理面での指導も必要である。また、自分の口では訴えることやアンケート等で出てこない「ひそんだいじめ」がある。こころの天気やタブレットの相談機能も活用しつつ、学校は家庭との連携、児童に目配りを行いいじめについてこれまで以上に取組んでもらいたい。また、社会ではスマートホンでのトラブルやいじめが後を絶えない学校でもSNSやインターネットを扱ううえでのメディアリテラシーを育てて欲しい。
- ・不登校の課題は年々多様化し、複雑化していることから、継続して学校組織全体で総力を挙げて課題解決を目指し取り組んで欲しい。
- ・他者のよいところ認める姿勢は、定着してきている。今後は、自分の良いところや自己肯定感・自己有用感を育てていく取り組みをしてほしい。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・経年調査を見る限り、大阪市の平均であることがわかる。強みも弱みも大阪市と同様なので引き続き弱みの部分を克服できるように日々の授業に努めてほしい。
- ・中学年でも掛け算や加減の計算が苦手意識やつまづきを持った児童を見かける、学年が上がるにつれ授業についていけなくなる児童も多くなる。日々の取り組みの中で基礎基本の計算力や読解力を定着せせる取り組みを行い基礎基本の定着に努めてほしい。
- ・体力向上については、約3年運動場が使えない状況であったが、来年度からは、運動場が通常通り活用できる状態になる。落ちた体力や運動に関する関心を高めるように努めてほしい。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・児童の端末の使用は定着してきていることがわかった。しかし、情報モラルやSNSの危険

性なども子どもたちに教えていく必要がある。

- ・読書を好きな児童を増やす事も大切であるが、好きにすることに重きを置きすぎている。数を読まないとわからないこと、児童自身に自分には、このような興味関心があったこと気付きのきっかけを与えてほしい。

3 今後の学校園の運営についての意見

- ・本地域には、好奇心がありやるきに満ちて学ぼうとする素直な子が多いため、そのよさが失われないような教育活動がすすめられることを期待する。
- ・学校だけでなく、家庭の教育力向上も重要である。協力する保護者が増えるよう、ねばり強く連携していくことが必要である。スマートホンの使い方などモラルについて取り組みを行って欲しい。
- ・近年、PC やタブレットの普及から、漢字の読み書きをはじめ、字を書く力が弱まったいるように思う。個に応じた指導をより充実させ、基礎・基本の定着をさせ長文を読みこなしたり、短く文にまとめたりする力を身につけさせる取り組みを引き続きすすめてもらいたい。また、算数科においても、最低限の計算ができるよう基礎学力を高めていく取り組みを進めてほしい。
- ・日々の教育活動を充実させ、本年度課題であった項目について改善していったほしい。